



市民芸術文化祭「四日市の第九」



大四日市まつりでの菅公

四日市の文化力元年



創造と育成、そして発信



文化会館

四郷郷土資料館

みんなが誇りを持てるまちづくり

市は、今年を「四日市の文化力元年」と位置付けて、夢のある新たな政策や施策に取り組んでいます。古くから宿場町・港町として栄え、人・モノ・情報が盛んに行き交うことで培われた四日市の多様な文化は、どれをとっても大変魅力的で、本市の誇りです。これらを生かしながら、新たな文化力の創造と育成によって、四日市のさらなる活性化を図るとともに、四日市ならではの文化の情報発信を行い、“産業都市”四日市に、“文化力”という新たな軸を加えて、産業と文化の調和した、魅力的で風格のあるまちづくりを推進していきます。

一人ひとりが支える文化

市では、祭りや伝統芸能、文化財、市民の文化活動などを貴重な四日市の文化として捉え、保全・育成を行ってきました。国・県・市の指定あるいは登録文化財は、8月1日現在で合計118件あります。各地域では、一人ひとりが重要な担い手となり、文化財や芸能を大切に守り、伝承しています。

また、市内各地では、市民が主体となって企画・運営されているさまざまな文化活動があります。文化活動の主役である市民の皆さんの、さらなる取り組みに期待しています。

文化活動の主役は**市民**の皆さん

身近な地域で生の芸術・文化との触れ合い

市民の皆さんによる文化活動は、個々の自己実現や文化を支える人材の育成・充実に繋がるだけでなく、身近な地域での生の芸術・文化に触れ合う機会が充実され、市全体の文化振興につながっていきます。

文化活動への参加を広げる 市民芸術文化祭

市では、市文化協会と協働して、毎年、文化会館を中心に1年間にわたって市民の文化活動の発表や鑑賞の場として「市民芸術文化祭」を開催しています。この「市民芸術文化祭」は、市民の自主的な文化活動によって継続され、今年で62回を数えます。市民による身近な文化活動を通じて、今まであまり文化になじみのなかった市民が芸術・文化に親しむ機会となり、文化活動への積極的な参加を促すことにもつながっており、参加する市民の皆さんも年々増えてきています。



市民芸術文化祭で催された「第20回能楽をたのしむ会」

オリジナリティあふれる 地域発の文化事業

市は、市民団体が市や地域の文化振興に貢献しようと主体的に取り組んでいる音楽コンサートなどの文化事業に対して、「文化振興基金」を充当して助成しています。

この事業は、出演者との交渉、ポスター作り、集客、当日の運営などをすべて市民の皆さんが担うことで、コミュニティの結束や地域の活性化につながるなどの効果もあります。

中部地区 カントリー・ミュージック・コンサート

素晴らしい演奏に触れるだけでなく、出演者と中央小学校ハートフル合唱団とのジョイントもあり、家族でコンサートを楽しむ機会となっています。



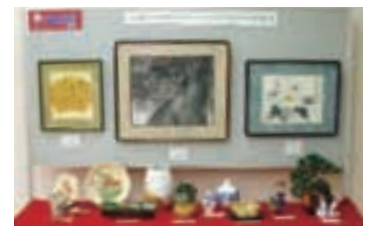
今年度のコンサート(7月6日)

手作り文化の中心拠点 文化の駅

市内には、美術作品や手作りの展示やミニコンサート、映画鑑賞会、落語会の開催など、市民の文化の発表、体験、交流の場として、「文化の駅」があります。

「文化の駅」は、諏訪栄町の一番街商店街の空き店舗を活用したメインステーションや中心部のサテライトステーション、そしてローカルステーションに分かれています。中でも、「ローカルステーション」は、銀行、店舗などに登録していただき、市民の文化活動の身近な発表や鑑賞の場として活用されています。

8月1日現在、ローカルステーションには18件登録されており、ご協力いただける店舗などを随時募集しています。



「文化の駅」ローカルステーション

全国に文化力を発信

全国から93組が応募、16組が本選へ



2012年**10月21日** 日 13:30開演 文化会館 第1ホール **入場無料**

「家族」と「絆」をテーマにした音楽コンクール。北は北海道から南は鹿児島まで、全国から93組の応募があり、予選を勝ち抜いた16組のファミリーによるコンクールを文化会館第1ホールで開催します。

当日の審査は、6人の審査員と公募した市民審査員で行います。司会進行は、作曲家・指揮者として活躍中の青島広志さん。当日は、青島さんの生演奏もあります。



司会進行
青島 広志さん

©gakken pub

8月2日に予選審査を実施

家族全員による弦楽器の演奏、三世代による演奏など、家族の絆が感じられる素敵な演奏ばかりでした。慎重に審査した結果、本選へ出場する16組を決定しました。

審査員長の講評

初めての試みにもかかわらず、全国各地から93グループものご応募をいただき、しかもレベルの高いグループが多く、感心しました。また、音楽のジャンルや使用楽器などバラエティーに富み、どのグループもファミリーのつながりが感じられる演奏でした。このコンクールをきっかけとして、音楽を通じた家族の絆が、より強く深く結ばれることを願っています。

郷土から発信

郷土が誇る芸能大会

各地区連合自治会から推薦された団体・個人が、文化会館に一堂に会して演じ合う芸能の祭典として、昨年度、初めて開催しました。

地域で大切に受け継いできた伝統芸能や趣向を凝らした芸能により、会場全体が感動を共有し、四日市の魅力を再発見することができました。(今年度は2013年1月19日に開催予定)



敬山会(三重地区)の雅楽演奏

郷土が誇る偉人「丹羽文雄」

丹羽文雄は、50年以上にわたる旺盛な作家活動と、現在も活躍する多くの作家を輩出した同人誌『文学者』の主宰者として後進の育成に尽力した四日市市出身の小説家です。

丹羽文雄記念室(博物館3階) **入場無料**

直筆の原稿(複製)やゆかりの品などを展示するほか、多彩な文学者との交流の場となった武蔵野市の丹羽邸の応接間(写真)を再現するなど、丹羽文学に触れられるようになっています。



文化を支える活動拠点

文化会館

文化会館には、4つのホールや展示室、会議室などがあり、さまざまな用途で利用できます。特に、第1、第2ホールは、オーケストラやオペラ、ミュージカルなど、プロによる芸術公演が行われたり、市民による演劇やミュージカル、音楽のコンサートが行われる芸術鑑賞の機会を提供する場とともに、市民の多様な文化活動の拠点となっています。

また、展示棟では、本市の地場産業であり、伝統工芸である萬古焼の展示をしたり、市民の作品を発表する場として活用しています。

文化会館が開館してから今年で30年。今年度は、30周年記念事業として、四日市JAZZフェスティバルや市民ミュージカル「レイル・ドリーム」、そしてヴェネツィア室内合奏団演奏会など多彩な事業を企画しています。



常設展示室

四日市JAZZフェスティバル

前夜祭 10/27 土

本番 10/28 日

音楽で街のにぎわいを創り出し、みんなで「音楽の街・四日市」をつくりあげます。企画、運営は市民ボランティアが中心になって行っています。



前夜祭に出演する
Maya Hatch

市民ミュージカル「レイル・ドリーム」

12/7 金・8 土・9 日

勢江鉄道(現在の三岐鉄道)の敷設にかけた夢と、現在の三岐鉄道にかかわる人々の夢をクロスさせながら描く物語を、市民がミュージカルで熱演します。



練習に励む出演者

●2公演ともお問い合わせ／文化会館 ☎354-4501

茶室 泗翠庵

泗翠庵は、日本古来の伝統文化(茶道・句会など)に親しめる場として利用できるほか、四季折々のお床を見ながら、気軽に菓子と抹茶で一服できる、いすの茶席の立礼席りゅうれいせきも設けています。立礼席はどなたでも予約なしで利用できます。また、茶室・庭の見学もできます。

●お問い合わせ／茶室泗翠庵 ☎352-4960



あさけプラザ

四日市市と三重郡の広域複合コミュニティ施設で、住民の文化、教養、スポーツ、創作、学習などの活動の拠点となっています。

地元若手音楽家によるコンサートや文化サークルの舞台発表、各種展示を行う春と秋の文化祭など、たくさんの文化イベントを開催しています。

●お問い合わせ／あさけプラザ ☎363-0123

民間文化施設

市内には、音の広がりこだわった、民間の音楽専用小ホールや35ミリ以上の映画が上映できる劇場があります。これらは、市民の文化活動を支える貴重な文化施設であり、まちの財産でもあります。

市では、「民間文化施設活用事業」として、こういった民間文化施設を利用して行われる市民の文化事業を支援しています。

新たな担い手の育成

子どもたちに音楽鑑賞や楽器に触れる機会を

“子どもたちに身近な場所で生の音楽の鑑賞機会をつくる”ことを目的に、小学校や中学校でプロのアーティストや交響楽団の演奏を鑑賞したり、楽器に直接触れられる機会として、「学び舎音楽会」などを開催しています。

また、毎年、文化会館で、2日間にわたって三泗小・中学校音楽会を開催。音楽会では、小学生と中学生の2部門で、日常の音楽学習の成果を互いに発表し合い、また、楽しく聴き合うことを通して、これからの音楽活動の表現力や鑑賞力の向上に生かしていくことを目指しています。ここでも、参加校が発表するだけでなく、プロの演奏家を招待して、生演奏を聴かせてもらっています。



学び舎音楽会



プロの演奏家からピアノの構造の説明を聞く子どもたち 三泗小・中学校音楽会



受け継がれる伝統文化・芸能

地域の文化や伝統を大切に、次世代へ引き継ぐ取り組みが、市内の各地で行われています。富田小学校では、3年生の総合学習で、鯨船保存会会員から鯨船行事について学び、実技の指導を受けています。この成果は、秋の授業参観で披露されています。

また、水沢の「お諏訪おどり」は、毎年7月31日の水まつりの際に足見田神社に奉納されています。この踊りには、地元の小学生や中学生約40人が参加しており、新たな後継者として期待されています。



鯨船(富田小学校、写真上)
お諏訪おどり(足見田神社、写真下)



あんみ
坂口 杏規さん
(中学3年)

けいこを積んで「お諏訪おどり」を披露

小学2年で歌を始めて、今は太鼓をやっています。私たちは大人の人たちに教えてもらうだけでなく、小学生に教えることもあるので、そのときは、今まで自分が覚えてきたことを正しく教えるように気を付けています。

今、自分の住んでいる地区のことにかかわることができてうれしいです。これからも周りの大人の人たちみたいになれるまでずっと続けたいです。

国指定の文化財 / 国史跡 久留倍官衙遺跡

みんなで集い、学び、いこう公園に

「官衙」とは現在の「官庁(役所)」のことで、久留倍官衙遺跡は、北勢バイパス建設に伴う発掘調査で確認された奈良時代の役所跡です。

大矢知町内にあるこの遺跡は、皇位をめぐる古代最大の内乱である天武元(672)年の壬申の乱や、奈良の大仏を造った聖武天皇が天平12(740)年に行った東国(伊勢・美濃)行幸との関係が考えられています。史実と結びつく全国的にも貴重な官衙遺跡として、平成18年7月28日に市として初めて国の史跡の指定を受けました。



久留倍官衙遺跡の特徴はなんですか？
どこがほかの遺跡と違うんですか？

偉い人は南を向くという「天子南面」という考え方



があって、久留倍官衙遺跡と同時代の役所の多くは、南を向いて造られていたんじゃ。ところが、この久留倍官衙遺跡では、役所の中心である政庁が東を向いている。それが特徴なんじゃ。

政庁のほかには、どんな建物が見つかったんですか？

ほかにも高床倉庫と思われる建物の柱跡が2棟分見つ

ているんじゃ。これは、これまで三重県で見つかった高床倉庫の中で一番大きいんじゃよ。



平成29年春 整備完成予定

市では、この貴重な遺跡をしっかりと保存するとともに、歴史や文化と身近に触れ合える公園として整備します。



整備完成予想図

博物館で 久留倍官衙遺跡展を開催します

入場無料

11月11日～12月9日

官衙遺跡が他の時代と比較してどのような特徴があるのか、官衙の説明や周辺遺跡との関連性などを出土品やパネルを使って紹介する展示を行います。

また、久留倍遺跡運営委員会の皆さんが手作りの古代衣装の着用体験や、「久留倍官衙 復元建物の魅力」の講演会も開催します。



イメージ図

編集後記

特集を読んだ皆さんが、今回の特集で取り上げた文化のいずれかを、直接観て、聴いて、触れて、感じることで、今よりもっと文化にかかわっていただけたらいいなと思っています。(文化国際課 秦、社会教育課 石毛、広報広聴課 堀田)

●この特集についてのお問い合わせ・ご意見は **文化国際課 ☎354-8239 FAX 354-4873**
社会教育課 ☎354-8240 FAX 354-8308
広報広聴課 ☎354-8244 FAX 354-3974